



みなさまこんにちは。3月です！春です！年度末です！確定申告です(笑)

日本は4月からが新年度ということで、切り替えのこの季節、何かと気ぜわしいですが、卒業・入学をはじめ、春のフォーマル着物の出番です！！久しぶりにダンスを開けたらカビやシミが！なんてことはありませんか？着用の予定がある方は、お早めに当店にご相談ください。また、コーディネートのご相談なども承っております。お持ちの小物やお着物・帯などをご持参ください。もちろん相談だけでも喜んで承ります。

ところで、春になりたいぶ暖かくなってまいりましたので、当店の社長が毎週木・金・土の3日間、いわき店当番となります。社長当番日に来店すると、何かいいことがあるかもしれません！ぜひお値段交渉などどんどんしてみてください(笑) みなさまの喜ぶ笑顔が見たいと申しておりますので、ご来店お待ちしております。なお、私若女将も怠けているわけではありません(^^;) 催事期間中のどこかでいわき店に出向いたしますので、ぜひ可愛がってください。よろしくお願ひします。

さて、今月もお客様に喜んでいただけるような企画満載で、ご来店をお待ちしております！！

<今日のコーデ>

和装館よろづ屋のInstagram、Facebookの投稿で好評の「今日のコーデ」
若女将をはじめ、ご来店下さったお客様やスタッフのコーディネートをご紹介します。
よろづ屋にご来店の際は、ぜひともお着物でお出かけください！！



原町店スタッフ
コーデ。可愛らしいパステル調のお召に栗山工場の帯で華やかに。あえて小物に色を加えない引き算コーデですっきりと。



若女将コーデ。
米沢紬に結城紬八寸帯。着物が薄っすらグリーンなので色でまとまり感を出しました。半衿は薄グレーの綿レース。



お客様コーデ。
紺の大島紬に木屋太の袋帯でモダンな装いに。鮮やかな黄色の小物が、効き目抜群です。



お客様コーデ。
桜柄の染め大島に、博多八寸帯。同系色コーデに小物の赤のアクセントカラーでお正月らしさを演出。鳥獣戯画の帯留も洒落てます。



若女将コーデ。
うす紫色の小紋にhibicolleの博多帯を合わせました。着物も帯もお花いっぱい華やかに。いつもよりエレガントな雰囲気を目指しました。



いわき店スタッフコーデ。
粋なデザインの小紋に博多帯。帯周りの色のトーンを合わせてシンプルに着こなしています。

和装館 よろづ屋の情報は、ホームページ、SNSで発信しています。ぜひフォローしてください。インターネットラジオオ番組「和のある暮らし つむぐラジオ」も配信中！！



< よろづ屋 きものがたり～西陣御召～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第15回目は、徳川十一代将軍・徳川家斉が好んでお召になりました。「将軍様のお召し物」がその名の由来です。

「お召」とは御召縮緬が正式名称の、和装生地に用いられる絹織物の一種です。ただし通常の縮緬とは異なり、



お召は先練りの織物です。先練りというのは織る前に糸の状態を精錬(セリシムを取る)して糸を染めることです。その中でも本物の西陣御召はその糸使いに御召緯(おめしめき)という強撚糸を使用していることが特徴で、この技術によって静電気がおきにくい裾さばきのよい、しゃきつとしながら体に添う、着心地の良い着物が出来るのです。また「しぼ」の美しさも魅力の一つです。その控えめな凹凸の有る生地は、光の屈折によって上品で深みのある色合いを表してくれます。

この御召緯という糸についてですがまず最初に甘撚りした絹糸に海藻や姫糊などの天然素材だけを使用し熟練の職人の手で気温、湿度などを考慮しながら丸二日を要して糊付けされます。(糊付け) その次にまた別の職人が糸を管に巻き取り、1mに2000～3000回という強い撚りをかけます。(甘撚り糸:300回以下/m、並撚り糸:300～1000回/m、強撚糸:1000回以上/m)

糸が乾かないように、気温、湿度を感じ取りながら糸に水をかけ、又切れた糸がないか常に気を配りながら1反の着物を作るのに要する緯糸を約3日間かけて撚ります。ここでは織物を平均に織り上げるために、右撚りと左撚りの2種類の撚糸が作られます。(撚糸)

このような御召緯を右撚り左撚り二本ずつ交互に緯糸に織り込んだ織物が「御召」ですが、熟練の職人さんでもむら無く織ることは難しく手間がかかります。(製織)

そして、織り上がった生地を湯の中に通して「手もみ」しながら糸についた糊を落とすと幅が狭まり御召独特の「シボ」が出てきます。(湯通し)

それをまた幅を出して乾燥させます。(幅出し)

こうやって熟練の職人さんの手によって、たくさんの工程を経て「お召し」は織り上がります。



西陣御召訪問着 256,000円(税込)

お召ならではのシャリ感と光沢が魅力です。



長持ちさせるお手入れの仕方

頻繁には洗わない着物や小物だからこそ、着たあとにきちんとしたお手入れが必要になります。着物を脱いだらそのまましまうのではなく、ひと手間かけていつまでも大切に着ましょう。

～長襦袢編～

肌に近い長襦袢には、汗がつきやすいものです。

最近、綿シルクなど自宅で洗える天然繊維の襦袢もありますが、絹などの天然繊維の場合は毎回のお手入れが大切です。脱いたらハンガーに掛けて陰干ししましょう。衿元、袖口、裾をチェックして、別珍の布などでほこりを取ります。

皮脂がつきやすい半衿と袖口は、タオルを敷いてあて布の上からリグロインを含ませた布などでたたき落とすときれいになります。リグロインを使用する際は、換気をし、火気の近くを避けましょう。化繊なら気軽に洗濯できるので便利です。汚れたらサイズのあったネットに入れて丸洗います。脱水は短めにし、手でシワを伸ばしてからハンガーにかけて乾燥させます。



家庭でのシミ抜きや衿汚れを落とすのに用いられるリグロイン。ガーゼなどの布に含ませてたたいて使います。

着物の辞典 大久保信子監修

今月のおススメ!



よろづ屋オリジナル
野馬追足袋
4,180円(税込)

今回ご紹介するのは、よろづ屋オリジナルの「野馬追足袋」です。南相馬市を中心に毎年7月に開催される伝統の「相馬野馬追」。騎馬武者の勇壮な姿に欠かせない武者足袋を、よろづ屋オリジナルで製作しました。男性用の柄足袋はコロナの影響で生産が少なくなり、メーカーでも品薄になっております。綿100%のしっかりとした生地を選び、足袋底は汚れが目立たないように黒底にしました。柄のトンボは五穀豊穡の象徴とされ、前にしか進むことができないことから「勝虫(かちむし)」と呼ばれ、演技の良い虫として知られていることから、相馬野馬追の騎馬武者の足袋としてピッタリと考えました。埼玉県行田市にある老舗の足袋メーカーさんをお願いして製作しておりますので、品質や履き心地は自信を持っておすすめできます。

ただし、サイズは25.0cm～27.5cmまでの男性用サイズとなっております。ぜひ旦那様への愛情あふれるプレゼントとして一足いかがでしょうか?色は黒と紺の2色です。

今年こそ、相馬野馬追が通常開催されますように!

・・・若女将のつぶやき・・・

先月は、北京オリンピックでの日本人選手の活躍する姿に感動の毎日でした。その中でも、特に印象的だったのは、やはり羽生結弦選手です。最後まで、あきらめずに攻めていったあのフリーの演技は記憶に残る素晴らしいものでした。インタビューで「努力は報われない。全て出し切った」と答える姿にただただ涙でした。本気で努力を積み重ねてきた人だから言える言葉。時に努力は裏切ることあるけれど、報われない努力なんかはない。何も残せない努力なんかはないんだと、羽生選手の演技を見て思いました。私もますます頑張らないと!そんな決意の次の日は雪...雪かき?...頑張るとはそこじゃないと、お家にもってました(笑)

